

株式会社ジェイコム武蔵野三鷹
放送番組審議会 議事録

平成 30 年（2018 年度）株式会社ジェイコム武蔵野三鷹 放送番組審議会委員会は、2019 年 3 月 12 日（火）三鷹産業プラザ 7 階 703 会議室で開催された。

【放送番組審議会委員】

秋山 慎一 様
小島 祐一 様
金子 彰 様
見城 武秀 様
塚本 真史 様
土方 弘子 様
平ノ内智生 様

事業者側から J:COM チャンネル（11ch）と J:COM テレビ（10ch）について報告があった。

【質疑応答・意見交換】 進行：見城会長

■「デイリーニュース」について

委員

「ど・ろーかる」のアプリをダウンロードして観ているが、ニュースや吉祥寺駅前の様子が定点カメラでいつでも観られる。視聴者投稿できる仕組みもあり、数年前には夢だったことが実現できていて身近になってきている。視覚障害者柔道大会なども番組化しており、普段知ることの無い情報を番組から教えてもらうことも多くありがたい。

委員

ケーブルテレビを取り巻く環境が変わり、スマートフォン、アプリ、SNS、技術面でドローンや AI アナウンサーなど、新しい技術を取り入れているとのことだが、AI ニュースの仕組みについて興味があるので、教えて欲しい。

事業者

お天気情報、交通情報など情報をパソコンに入力することにより AI が読み取り音声を発生している。多少機械的な声になるのでイントネーションを良くするために工夫をしながら対応しているが、アナウンサーを配置しなくても放送できるので災害報道を意識して導入した。直近の例を挙げると、北海道胆振東部地震の

際には現地スタッフが 24 時間情報を伝えるために稼働しており体力的にも大変だった。そこで現地スタッフの負荷軽減を目的に、札幌の現地取材映像を使って千葉県浦安市のスタジオから番組を送出した。アプリでも併せて配信したが多くの方に視聴いただいた。有事の際など NHK、民放からの第一報があり、その後地域の情報がどうなっているかという順になっていくが、現地の継続した情報を 24 時間リアルタイムに伝えていくためにも AI ニュースを採用した。現在 1 台のみだが、今後各拠点スタジオに配置して細かな情報をお送りできるよう検討している。

委員

特に災害時にケーブルテレビから得る地域の細やかな情報は非常に頼りになる。技術の進化によって、データ放送や自動的に配信できる時代も来ると思うので、こういった災害時にも対応できる情報発信を今後期待している。

委員

AI ニュースについては非常に興味深い。こちらの地域ではいつ頃から採用なのか。

事業者

現在は多摩地区のみで放送しているが、武蔵野三鷹エリアについては 4 月 1 日より開始する。

委員

調布在住なのだが、勤務先が三鷹市にあり、そのビルにはジェイコムが導入されておらず観られない環境。視聴可能エリアは現在も広げているのか。

事業者

現在、武蔵野三鷹エリアは 18 万世帯中、12 万世帯が接続可能で未配信世帯数は 6 万世帯。世帯拡張に力を入れて広げてはいるが、視聴環境が整わない方へは「ど・ろーかる」アプリからの視聴を誘導している。

事業者

番組ひとつひとつについては我々もプロモーションにもっと力を入れていかないといけない。アプリ機能を使った特番のライブアプリ配信においても、配信告知の情報を強化していくべきと考えている。

委員

2 年前出席した当審議会で、中学生東京駅伝の特別番組をはじめたという話を聞いた。そこから考えると SNS 周知などもできてリアルタイムで視聴できるようになっていると思う。行政としても生放送で観てもらえる層に関心があるので、こういった地域密着の情報を増やす取り組みは、是非引き続きお願いしたい。特別番組「都立高校入試解答速報」も観ている方は多いのではないかと。新たに企画している番組・ジャン

ルなどはあるか？

事業者

地域スポーツ、地域イベントの中で生放送ができるものがないか検討しており、増やしていきたいと考えている。2019年のラグビーワールドカップ、2020東京五輪があるので、放送権の関係で直接は関われなくとも、地域の動きや記憶に残る映像などを残していきたい。

委員

放送の形がどんどん進化していて、インターネット経由やアプリなどで視聴できる時代となっているが、テレビの視聴率についてはどうか。番組によってどれが視聴率良かったりするのかわかるのか。

事業者

地上波のように独自に視聴率計測器を使ってやっているのとは違うため番組ごとに公表できる視聴率を持っていない。

委員

ジェイコムは収益構造というのは、有料放送ということもあるが、スポンサーなどの収入もあるのか。

事業者

ジェイコム全体としては有料チャンネルとしての収益はあるが、コミュニティチャンネルとしての収入は、スポンサーという形で広告をいただくこともあれば、地域企業から番組に協賛してもらうこともある。

委員

最近ではテレビでもプロ野球中継がなくなってネット配信になってきているが、ジェイコムでは是非、地域でしか観られないもの、地域で楽しむことができるスポーツなどを放送していただきたい。

委員

吉祥寺では今年の大規模GW期間中に、毎日各種イベントを実施するので是非地域情報として取り上げていただきたい。

■合併の効果と4K放送について

委員

- ① 合併後、東京エリアでの効果や、番組作りが横断的になったりするのかわかるのか？
- ② 4Kとジェイコムの番組作りについてのメリット、地上波との違いについて

事業者

- ① 各局の放送に関しては従来通り。統合による効果はまだ見えていないが、2020 東京五輪に向けて合同でやることによるメリットなど今後議論していく。合同施策で良い企画や意見あったら是非情報をいただきたい。
- ② ジェイコム単独ということではなくケーブル局業界として 4K 放送に取り組むよう盛り上げている。まずは NHK BS4K などの 4K 放送の免許を取得したチャンネルを放送する方法。またオンデマンド等で独自で 4K コンテンツを制作するという 2 通りある。ジェイコムでは、4K 対応のセットトップボックス使って 4K 対応テレビを持っている加入者の方に手軽に観てもらうことが可能となる。グループチャンネルの J SPORTS も 4K 放送を開始しているが、ピュア 4K 比率は現時点では少なく、今後本数を増やしてお届けしていくことになると思う。

事業者

コミュニティチャンネルでも後世に残す歴史建造物やイベントなど、4K 制作を進めていきたい。2019 年にグループ内で 4K カメラを数台導入する予定なので、試験的に始めていきたい。

事業者

ジェイコム制作のコンテンツをジェイコム以外の放送局へオンデマンド配信提供することも可能。

委員

武蔵野三鷹ケーブルテレビ時代より、JCN からジェイコムへ社名が変わり、配信エリアも広がってきている。広くなることでコミュニティチャンネルが手薄になることは避けて欲しいが、今回の報告を聞いて全国への配信、「ど・ろーかる」を通じて地域の情報が発信されていることに安心した。是非、アプリも含め、地域情報×全国情報との両面で広げて行ってほしい。武蔵野三鷹地域の情報を放送し続けてもらうことは、この地域の財産にもなるし、過去のアーカイブ番組などの財産映像を今後も大切にしていながら番組作りをお願いしたい。

以上